シンポジウム「2020年の衝撃――出生率低下と変わりゆく日本社会」

表記のシンポジウムが朝日新聞社と財団法人年金住宅福祉協会主催で1990年11月1日（木）東京の津田ホールにて開催された．

まず，第1部基調報告として「出生率問題をめぐる日本の現状とヨーロッパの経験」が行われ，日本については人口問題研究所所長 河野稠果，ドイツについては前連邦青少年家庭婦人保健省第5局長のオスカー・シュレダー氏，スウェーデンについてはウプサラ大学教授のヤン・E・トロスト博士，そしてフランスについてはパリ政治研究所人口学教授のジョルジュ・タピノ博士がそれぞれ30分間講演を行った．

第2部は三菱総合研究所情報サービス事業部長 岡本勲氏がシミュレーション「2020年日本社会はどうなるか」の報告を行った．

第3部として，6人のパネリストが「出生率低下と私たちの生活」と題して出生率低下の要因や影響をめぐる議論から今後の対策の方向を探った．パネリストは次の人達である．

津島雄二厚生大臣
鈴木永二日本経営者団体連盟会長
竹内宏長銀総合研究所理事長
上野千鶴子京都精華大学助教授
見城美枝子テレビキャスター
ヤンソン柳沢由実子（フリージャーナリスト）
司会　大熊由紀子朝日新聞論説委員

（河野稠果記）

「高齢化と家族に関する国連・北九州市会議」出席報告

国際連合，北九州市，福岡県，㈳エイジング総合研究センター主催の「高齢化と家族に関する国連・北九州市会議」原名 International Conference on Aging Population in the Context of the Family が1990年10月15日から19日まで5日間北九州市国際会議場にて開催された．正式の招待出席者は約50名，その中30数名は外国からの参加者という，国連主催ならではの国際会議であった．この会議は日本における人口高齢化に関する国際会議としては，1986年の東京会議，1988年の仙台会議に次ぐ第3回のもので，今回は特に人口高齢化における家族に焦点をおいた会議である．開催地を代表して末吉興吉北九州市市長，奥田八二福岡県知事が開会の挨拶を述べられた．

今回の高齢化と家族に関する国連・北九州市会議は5つのセッションから構成された．第1は高齢化と家族に関する地域的な展望で，これは先進国に関する展望と途上国に関する展望の部に分かれる．第2セッションは人口学的課題についてであり，これは4つのサブセッションから成り，a. 家族の観点からみた人口高齢化に関する最近の研究調査結果と新たな問題点の論考，b. 高齢者の配偶関係に関するトレンド，c. 人口移動のパターンと高齢者家族成員に対する含意，d. 高齢者の世帯構造（住居形態）の動向のトピックスを論じた．

第3セッションは，社会経済問題についてであり，a. 家庭内における高齢者の変り行く地位と役割，b. 家族構造の変化とそれが高齢者に及ぼす影響，c. 高齢者から若い世代への資産移転という3つのサブセッションからなる．

第4セッションは高齢者に対する支援と題したものであり，a. 高齢者に対する家族と公的扶助のバランスの問題，b. 高齢者を介護する家族に対する公的扶助，c. 女性の地位の向上と役割の拡大および家族による介護の展望を論じた．

第5セッションはa. 高齢化する家族の住宅環境に対する含意，b. 高齢者の家族介護を促進するための住宅政策についての論議が行われた．